

2014.3

家で子供が過ごす部屋

～子供の過ごし方と親子それぞれの意識～

住宅購入時には、とりあえず子供のための部屋を用意しておく家庭が多いが、子供達は実際には家の中のどこで勉強し、くつろぎ、就寝しているのだろうか。また、家で子供が過ごす部屋について、親は、子供自身は、どのように感じているのだろうか。本研究は、小学生から高校生までの子供とその親を対象とし、家での過ごし方に関する実態と意識を調査、分析したものである。

■家で子供が過ごす部屋は、基本的にリビング

- ・ 大半の子供は自分の部屋を持ち、年齢が上がるにつれて自分の部屋で行うことが増える。しかし、「基本的に過ごす場所、居心地が良くくつろげる場所」はリビングである。
- ・ 自分の部屋を持っていてもそこで勉強・就寝をしているとは限らず、勉強をリビング・ダイニングや自宅外の塾などで行ったり、親の部屋で一緒に就寝する子供は多い。
- ・ このような行動の背景には、昔と比べて対等で仲の良い親子関係があるようだ。家族一緒に時間を好きな子供と、もっと子供と会話したい親が大多数である。

■子供の部屋は、「荷物がまとまる」「ひとりになれる」場所

- ・ 過ごす部屋はリビングだが、自分の部屋が不要なわけではない。子供にとっては「ひとりになれる場所」として、親にとっては「子供の荷物がまとまり、管理を任せられる場所」として価値がある。
- ・ 家族と一緒に過ごす部屋はリビング、子供部屋は「荷物を置く、眠る」といった、いわゆる「寝室」としての意味合いが強くなっている。

調査概要

■ 定量調査

調査時期：2013年7月

調査方法：WEB調査

調査対象：一都三県在住

小学生～高校生男女とその父親・母親

回答者数：1,664組

※詳細は最終ページ参照

■ 定性調査

調査時期：2013年7月

調査方法：訪問デプスインタビュー、

および会場デプスインタビュー

調査対象：一都三県在住 小学生～高校生男女とその母親

回答者数：16組（訪問15組、会場1組）

※詳細は最終ページ参照